

サッカー

ワールドカップに弾み

はじめに

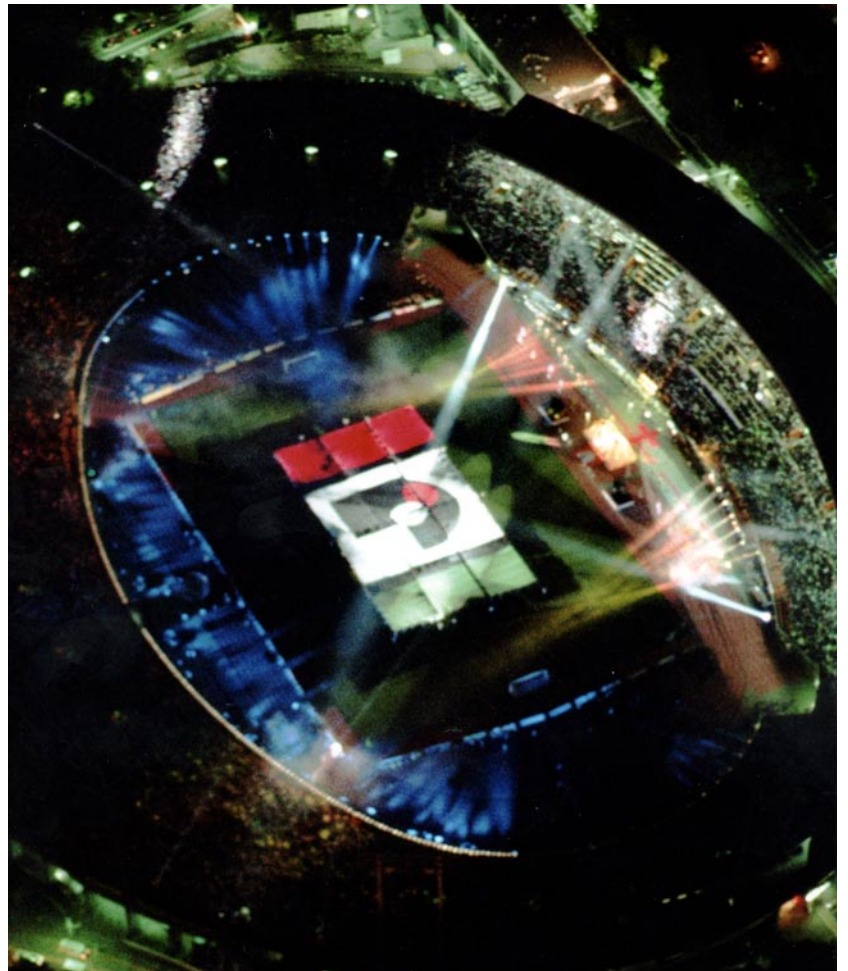
ほとんどの国で「フットボール」と呼ばれているスポーツは、日本では普通「サッカー」と呼ばれますが、これは主にアメリカン・フットボールと区別するためです。このスポーツも日本では大学と社会人のチームがあり、熱心な固定ファンがいます。

この10年で、サッカーは日本で人気が沸騰しました。全国の推計参加者は72万人となり、1997年のレジャー白書は、サッカーを日本で4番目の人気スポーツに位置づけたのです。この数字は1998年と比較して50パーセント以上の増加です。

プロサッカーに関しては日本は比較的新参ですが、1993年の国内プロリーグ導入は、プレイレベルの向上に明らかな影響を及ぼしました。1998年ワールドカップの予選で、日本代表チームは最後の2試合でカザフスタンとイランに勝ち、韓国、サウジアラビア、イランとともに、来たるフランスでの本戦にアジア代表として出場する権利を得ました。また、2002年にワールドカップを（韓国と）共催することも決まっています。各競技関係者もスポーツ用品メーカーも、現在のサッカー人気をヨーロッパや南米に引けを取らないブームになるよう願っています。

成長の種

日本のサッカー団体、日本サッカー協会（JFA）は1921年に設立されました。1948年



からは全日本サッカー選手権大会が、天皇杯の通称で知られるようになりました。1997年、第77回天皇杯大会では3,000チーム以上が予選を戦いました。決勝戦は東京・代々木の国立競技場で1998年元旦に行われ、鹿島アントラーズが栄冠を手にしたのです。

笹川スポーツ財団発行のスポーツ白書に

Jリーグ
 1993年5月15日、リーグ開催記念式典の空からの眺め
 © Yomiuri Shimbun

よると、サッカーは小学校男子児童の間では野球に次いで2番目に広く行われるスポーツになりました。野球の参加率24.9パーセントに対し、サッカーは21.7パーセントです。同白書は日本の中学校の61.3パーセントに公認の男子サッカーチームがあると述べています。高校では19.7パーセントしかありませんが、それでも18万人以上の競技者がいることになります。これに加え、企業・地方自治体その他が組織するクラブ数も増えました。日本のサッカークラブ数は1989年から1994年で倍になり、現在では2万2,100のクラブがあります（いわゆるミニサッカーを含む）。日本サッカー協会は登録会員総数が大幅に増え、1995年には84万3,279人に達しました。

この人気を長期にわたって持続するため、講習や毎年国立競技場で行われる全国高校サッカー選手権大会などの試合を通じて、若い選手を惹きつける努力がなされています。

サッカーへの関心の高まりは女子サッカーの人口増へもつながりました。登録メンバー数は、1986年の7,403人から、1995年には2万2,237人へと増加したのです。1989年には、日本女子サッカーリーグが創設されました。同リーグは1994年にLリーグと改称、実業団の10チームで構成されています。日本代表チームは1990年に北京で開催されたアジア大会で銀メダルを獲得、1991年と1995年には女子サッカー世界選手権に出場しました。日本代表チームは1999年にアメリカで開催される次回世界選手権にも出場資格を得ています。

プロサッカーリーグ、Jリーグ

サッカーの日本代表チームは西ドイツ（当時）のデュースブルクからデトマール・クラマーをコーチに招き、1960年から1963年まで集中的にトレーニングを行いました。クラマーとチームの粘り強い努力により、日本代表は1968年メキシコ・オリンピックで銅メダルを獲得したのです。フォワードの釜本邦



少年サッカー
少年サッカーの伸びが、サッカーが日本で花開いた理由の一つ。少年選手と一緒にプレイするサッカーのスター選手ラモス瑠偉
© Yomiuri Shimbun

茂は同大会で7ゴールをあげました。サッカーのブーム到来です。クラマーは帰国前、日本サッカー強化のためリーグ設立を提案しました。しかし代表チームは国際大会でそれ以上の戦績を残せず、その後のオリンピックやワールドカップに出場できませんでした。ブームは次第に消えていったのです。

1987年、日本サッカーリーグ（JSL）総務主事・森健児が、選手のプロ登録を実現しました。また1988年、JSLは活性化委員会を設置、日本でのサッカー再生の道を話し合いました。翌年、同委員会はプロリーグ創設を提言したのです。

約2年の準備期間後、1991年1月、日本サッカー協会は新しいプロリーグの基本構成を発表。その後すぐ、新リーグに参加する10チームが発表され、同年7月を待たず、リーグ名称が発表されました。日本プロサッカーリーグ、略称Jリーグです。

Jリーグは日本サッカー協会の下で運営されています。Jリーグはプロの試合開催と試

	ホームの都道府県	加盟年
コンサドーレ札幌	北海道	1998
鹿島アントラーズ	茨城	1993
JEFユナイテッド市原	千葉	1993
柏レイソル	千葉	1995
浦和レッドダイヤモンズ	埼玉	1993
ヴェルディ川崎	神奈川	1993
横浜マリノス	神奈川	1993
横浜フリューゲルス	神奈川	1993
ベルマーレ平塚	神奈川	1994
清水エスパルス	静岡	1993
ジュビロ磐田	静岡	1994
名古屋グランパスエイト	愛知	1993
京都パープルサンガ	京都	1996
ガンバ大阪	大阪	1993
セレッソ大阪	大阪	1995
ヴィッセル神戸	兵庫	1997
サンフレッチェ広島	広島	1993
アビスパ福岡	福岡	1996

Jリーグのチーム

合の公式記録、規則の設定、選手・コーチ・審判の訓練・認可・登録を担当します。

創設当時のJリーグの目標は、文化としてのサッカーの促進、日本サッカーの強化・養成、選手・コーチの地位の向上、スタジアム整備その他地元との連携協力推進を掲げました。またリーグそのものだけでなく、専門分野を扱う多くの関連企業も設立されました。例えばJリーグ映像株式会社は公式戦の全映像を管理し、映像記録を残し、権利を監視します。他の企業ではサッカー関連の宣伝広告を扱ったり、Jリーグのロゴやマスコット・キャラクターなどを使った商品を販売したりしています。

1992年9月5日、新リーグ初の公式トーナメント戦として、Jリーグ・ヤマザキナビスコ・カップがスタート。リーグ戦は1993年5月15日に始まりました。チーム数は1994年に12、1995年に14、1996年に16、1997年に17、1998年に18と拡大されました。1998年からはJリーグは2部制を導入します。

Jリーグの人気は、とりわけスター選手に負うところが大きいです。例えばブラジルの元スター選手ジーコは、鹿島アントラーズをJリーグ有数のチームへと導きました。ヴェルディ川崎の三浦知良はサッカー選手としてのキャリアをブラジルのクラブでスタートし、日本代表チームのエースとなりました。横浜マリノスの井原正巳は100マッチ以上の国際試合に出場、昨年のワールドカップ予選では主将を務めました。ベルマーレ平塚の中田英寿、横浜マリノスの川口能活と城彰二などの若手も代表チームメンバーとして非常に活躍しています。

とは言え、日本のプロサッカーも、大人気スポーツである野球と一部シーズンが重なるなど、多くの問題に直面しています。Jリーグは、プロ野球チームのない小都市に地元チームを設立するなど、ファンやサポーターを惹きつけるための数々の方策に資本を投じました。Jリーグはまた、チーム組織のクラブ化（ヨーロッパで行われているやり方）をアメリカ式のチケット販売・キャラクター戦略の



2002年ワールドカップ
2002年6月9日、ロシアからあげた日本の初勝利に声援を送る横浜国際総合競技場に詰めかけたファン
© Yomiuri Shimbun

ビジネス手法と組み合わせる、ユニークな方式を採用しました。チームと企業スポンサーというシステム（プロサッカー選手のユニフォームに企業スポンサーの名称を入れる。プロ野球選手の規定とは異なる）も、支出の分散とリスクの最少化に役立っています。

Jリーグで提唱されているように、クラブと地元地域社会との緊密なつながりの構築は大変重要視されています。実際、クラブ名は地元名とニックネームの組み合わせで、どのクラブもサテライトチームや二軍を運営しています。これらの努力が多く熱狂的なサポーターを生みました。

しかし、スタート時には大きな成功を収めたにもかかわらず、Jリーグは現在いくつかの問題に直面しています。1995年から1996年で、Jリーグの試合の観客は26.3パーセント減少、一部チームに財政的困難を引き起こしました。テレビでの試合放映数も目立って減っています。別の問題としては、Jリーグ所属17チーム中8チームが関東地方に集中していることがあります。サッカーの強化養成と地元の発展というリーグの当初目的達成のため、他の地域へのチームの分散が求められるでしょう。

2002年ワールドカップ

ワールドカップは2002年、初めてアジアで開催されます。日本はこのイベント主催のため精力的な運動を行いました。そして1996年11月6日、国際サッカー連盟（FIFA）はスイス・チューリッヒで会合を開き、日本と韓国のワールドカップ共催決定を発表したのです。

FIFAの規定は、およそ次のようなものです。

1. 大会の公式名称は 2002 FIFA World Cup Korea/Japan とする。
2. 参加計 32 チームで 64 試合を戦う。一次リーグでは両国が各 4 チームの 4 グループずつを主催する。
3. 両国は試合を開催する最低 6、最多 10 のスタジアムを用意する。
4. 開幕戦は韓国が主催、決勝戦は日本で行う。
5. 予選の組み合わせ抽選は日本で、決勝リーグの組み合わせ抽選は韓国で行う。
6. 両国とも代表チームを 2002 年ワールドカップに出場させる権利を持つ。

日本での開催地

試合の割り当ては未定ですが、ワールドカップの各試合は、日本の次の 10 自治体で開催されることになっています（アルファベット順）。都市名が都道府県名と異なる場合、都道府県名は都市名の後にカッコ書きされています。袋井および掛川（静岡）、鹿島（茨城）、神戸（兵庫）、仙台（宮城）、新潟、大分、大阪、札幌（北海道）、浦和（埼玉）、横浜（神奈川）。

上記の施設は全て公共のもので、横浜と大阪の 2 つのスタジアムはすでに完成しました。横浜スタジアムは日本最大です。他の 8



サッカーくじ
2001 年 3 月に始まった政府運営のサッカーくじ toto。Jリーグの試合結果を予想するもので、収益は日本でのスポーツ振興に役立てられる
© Yomiuri Shimbun

つのスタジアムも、遅くとも 2001 年春までには完成します。札幌ドームは世界初の可動天然芝を備えることになっています。このスタジアムはドーム型建造物と人工芝、および天然芝の隣接アウトドア施設で構成されます。天然芝のフィールドは全面がドーム内の人工芝の上にスライドし、冬の厳寒期でも屋内でサッカーができるようになります。

ワールドカップの準備として、日本は 1997 年に国立のサッカー・トレーニングセンターをオープンしました。名称を J ビレッジと言ひ、福島県に作られたこの施設は、ドイツのスポーツ研修センターである Sportschule（シュポルトシューレ）と同様の理念を持っています。J ビレッジは日本サッカー協会・Jリーグ・福島県・東京電力の共同事業です。